



2020の身体性

Embodiment in 2020

黒田 嘉宏¹⁾, 野嶋 琢也²⁾, 古川 正紘³⁾, 近田 彰治⁴⁾, 江渡 浩一郎⁵⁾, Mhd Yamen SARAIJI⁶⁾
Yoshihiro KURODA, Takuya NOJIMA, Masahiro FURUKAWA,
Shoji KONDA, Koichiro ETO, and Mhd Yamen SARAIJI

- 1) 筑波大学 システム情報系, 2) 電気通信大学 大学院情報システム学研究科,
3) 大阪大学 大学院情報科学研究科, 4) 大阪大学 大学院医学系研究科,
5) 産業技術総合研究所 人間拡張研究センター, 6) 慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科

概要 : 本オーガナイズドセッションは, 身体性に大きく関わるハプティクス研究委員会, 超人スポーツ研究委員会, テレグジスタンス研究委員会の 3 研究委員会合同で企画されたセッションであり, 2020 年東京オリンピックを翌年に控え, 人の運動能力測定・トレーニング, 身体拡張ならびに技術コミュニティ形成に関する専門家を招き, あるべき新たな身体像, そしてその社会受容性について議論を行う。

キーワード : 身体性, 運動能力, 身体拡張, 社会受容性

1. はじめに

身体とは, 皮膚を境界面とする肉体のことを指すばかりではない。人の身体は物理的にも, 認知的側面においても拡張・増強が可能であり, 新たな身体像が模索されている。身体を拡張するうえでは, その基礎となる今の身体を識り, 今の身体の限界について識る必要がある。そのうえで, なにを, どのように拡張すべきかについて多方面からの模索が求められる。ただし, ただ拡張できればよいということにはならない。拡張された身体が, 社会の中で受け入れられ, 居場所を確保できる必要がある。そのためには多くの人を巻き込みつつ, 着実な議論と技術開発とを車の両輪としてすすめていくことが必要である。

本オーガナイズドセッションでは, 人の運動能力測定・トレーニングに専門家である大阪大学の近田 彰治氏, 身体拡張の専門家である慶應義塾大学の Mhd Yamen SARAIJI 氏ならびに技術コミュニティ形成の専門家である江渡 浩一郎氏をお招きし, あるべき新たな身体像, そしてその社会受容性について議論を行う。

謝辞 本オーガナイズドセッションを企画するにあたり, ハプティクス研究委員会, 超人スポーツ研究委員会, テレグジスタンス研究委員会の委員各位にご協力いただいたことに謝意を表す。